

令和5年度 第2回北海道函館豊学校学校運営協議会記録

- 【日 時】 令和5年11月14日（火）10:00～11:30
【場 所】 北海道函館豊学校 視聴覚室（協議）及び各教室（授業参観）
【参加委員】 青木達人、鏡典子、京谷佳子（欠）、田中祥平（欠）谷山静香、仲尾芳則
西村菜月、細谷一博、丸藤競、門真義弘 計8名
【事務局】 橋谷利崇、佐々木謙爾、新出雅彦、小野史人

1 開会

※教頭開会の言葉、北海道ろうあ連盟の通訳士2名の方の紹介。

2 主席者確認及び新委員紹介

橋谷教頭：

第1回の運営協議会に出席していただいた北海道教育大学函館校の北村教授ですが、この度キャンパス長に御就任されることになり、役職柄この委員を務めることが難しくなった。北海道教育委員会へ辞任の届け出を行い、正式に受理されたことを報告する。そしてこの度、同じく北海道教育大学函館校の細谷一博教授に新たに函館豊学校学校運営協議会の依頼をしたところ、御承諾いただいた。北海道教育委員会へ届け出を行い、無事受理されたことを報告する。

細谷様：※自己紹介

橋谷教頭：

第1回の運営協議会に都合が悪く主席できなかった本校PTA会長の西村様にも自己紹介をお願いします。

西村様：※自己紹介

3 学校長挨拶

第1回目は学校の経営方針を説明、第2回は4月からこれまでの教育活動の様子をお伝えするとともに、第1回でこのような取組をしますといった中身を報告したい。スライドの説明については学習発表会の説明を入れているので見ていただきたい。また、学校の様子も見ていただきたい。今日は外部講師で警察の方が来て、防犯教室という教育活動を行っているのでその様子を見ていただきたいと思っている。短い時間ではありますが、様々な御意見をいただけますようお願いしたい。

京谷様につきましては御家庭で体調不良者がいるということで欠席の連絡が入っている。皆様にはくれぐれもよろしくお伝えくださいとのこと。

4 日程説明、諸連絡

橋谷教頭：

次第の5番目に会長及び副会長の選任とあるが、こちらは第1回の委員会で丸藤様、京谷様に選任されておりますので、本日もこの後の協議・進行は丸藤会長にお願いしたい。質疑応答も含めて予定されている協議事項が終わりましたら、授業参観及び施設見学を予定している。（5 ※会長及び副会長選任も含む）

5 協議・連絡報告

<協議>

(1) 令和5年度北海道函館豊学校学校教育活動について（小野）

※スライドによる説明

※校長による学習発表会の様子の補足。小学部1年生の発表の様子について、楽器を合わせて演奏する難しさ、小6女子の音程がとれのびのある歌声などの説明。

丸藤様：質問はあるか？

校長：

補足で、幼稚部3歳さんの滑り台の場面があったが、学級担任の先生がお子さんのできることを見付けることが上手く、見付けた活動を発表に結び付けている。滑り台で滑らせるのはすごく上手いので活動に取り入れたり、くるくる回すことが好きなので活動に取り入れたりしている。その発表だったが、なかなか本番ではできなかった。いつもの雰囲気の違いに緊張していたのだろう。物を運んだり、落としたりすることも含めて、来年はできるはずである。4歳の幼児は、緊張して動けなかった。実は裏話を聞いたら、木の陰に隠れていた年長さんが、「ちょっと助けてあげて。」という先生の指示で4歳児を助けに行ってくれた。そしたら、無事に一緒に出てこられたというドラマがあった。5歳のお子さんは話し言葉や手話を覚えてコミュニケーションが豊かになってきた。ビデオを見て、話していることが良く分かるようになったことを実感した。中学生は1人1人の意見発表であった。総合的な学習の時間で自分の意見をどうするか調べ学習をし、国語科の授業とも関連させて学んでいた。国語科の中で自分の意見をどのようにまとめて発表するかという教材がある。それと関連させて、いろいろ調べて自分がどんな意見を言いたいかをまとめ、スライドを作っている。手話の練習や発音の練習などと合わせて話す練習も必要である。そういう意味では本当にいろいろなことに取り組み、頭を使って発表している。西村さんのお子さんのテーマは「人口問題」だった。

西村様：

家でも話をしてくれましたが、日本の他の地域にも興味をもっていた。学習発表会で話した内容以外についてもいろいろ調べて話してくれた。

(2) 令和5年度学校いじめ基本方針について（教頭）

※教頭が資料を説明

教頭：

資料を御覧になって何かあれば意見をいただきたい。P1～P4については今まで本校にあった基本方針を道教委から指導をいただきながら加除・修正を加えている。その次についている道教委のチェックリストを基に、9月に改訂を行った。その次のページのいじめの早期発見、事案対処マニュアルというものはこれまでもあったが、見直しを行った。報告書の裏面になるが、いじめ事案発生対応チャート図というものを今回新たに作った。いじめが発生したときには「いじめ対策委員会」を中心に学校として取り組んでいくということを、チャート図で示している。その次に「いじめられた生徒、いじめた生徒に見られるサイン」では、サインの例をこのように示している。常日頃からこういった幼児児童生徒がいないか先生方が指導にあたっている。最後に本校として年間のプログラムを作成した。これを基にいじめの早期発見・早期解決、未然防止に向けて取り組んでいる。この後、お時間のあるときに見ていただき、修正等が必要な箇所があれば学校まで連絡をいただきたい。

丸藤様：

学校いじめ防止基本方針について説明いただいたが、何か質問はあるか。

→なし

(3) 函館聾学校ボランティアバンクについて (校長)

いじめ防止は未然防止、早期発見が大切。そして実効性があるかどうかを高めていきたい。資料を読んでお気付きの点があれば教えていただきたい。また、このマニュアル含め、いじめ発生件数をHPに載せているので御覧いただきたい。

ボランティアバンクについてはHPに掲載し、深堀町会の会報にも付けて回していただいた。なかなか参加者が集まらないので駒場町会さんや東深堀町会さんにもお願いした。大学や社会福祉協議会にもお願いしてHPに載せてもらい、現在6名の方がボランティアバンクに登録していただき、講習を終えている。旧職員1名、未来大1名、教育大3名、同窓生1名。以前未来大を卒業された方で、現在、富士通に勤めている方が、手話サークルで出会った難聴の方のことを思って何とかしたいということで機器を開発して全国に広めている。振動と光で音を感じる機械で、これを全国の聾学校に配った。打楽器アンサンブル公演の際に本校でも使用している。中学部は職業体験でクレドホテルに行ったがホテルで働いている本校の卒業生も、自分の母校の力になりたいと言って申し込んでくれた。その他、申し込みをいただいたが叶わなかった方が町内会で1名いた。京谷様からアイディアをいただいて、高校生でも参加できるような時間帯を設定してほしいということに対応し、15時30分からのコマを作ったが時間帯が合わなかった。そのため、函館市立高校の生徒1名が講習に至っていないという状況にある。ホームページのアクセス数が昨年度20万件あったとお伝えしたとおり、関心をもって見ていただけているが、一步踏み出すことは難しいのだと思われる。ホームページは、関心が自分から見に行くものである。広報活動はすごく大切である。お願いしたいことは、深堀町会様の会報に再度混ぜて回してほしいということ、そして、同じように繰り返し広報を行うことが必要だと思う。また、大学にももう1度お願いしたいと考えている。聴覚障がい者協会にお願いし、きこえない方達や手話サークルの皆様からの本校への協力もいただけたらありがたい。先ほどの映像でもあったが、例えば絵本の読み聞かせは、深堀小学校や盲学校でもやっている。聾学校ではコミュニケーションの壁があってなかなかできない。手話が分からないということでもなかなか踏み出せない。手話ができなくても気持ちがあれば、本校では聴覚活用をするお子さんも多いので可能である。いろいろな形で参加していただけるのではないかと思う。他の特別支援学校で頑張っている学校というのはツイッターやインスタグラムなどをやっている。そこまでいくと本校では管理できなくなるので、HPで何とかしたいと考えている。可能であれば委員の皆さんも近くにいる方に、お知らせいただいて御協力をいただければと思っている。6月に作った案内では11月2日の学習発表会までの日程が組まれているが、今後も継続するために随時相談できるようにし、既にホームページに改訂版を掲載している。「その都度、講習をやっていきます。」という形で募集したので内容を見ていただいてアクセスしてほしい。

丸藤様：来年度以降も行うのか？

校長：来年も行う予定である。

西村様：QRコード付きのチラシを配ってはどうか。

丸藤様：スーパー銭湯に掲示するのはどうか？時間帯に余裕がある方が出入りしている。

校長：函館市の広報には載せてくれるのか。

丸藤様：大丈夫かと思う。

校長：

本校のニーズとボランティアの都合のことを考えると6人だけだとマッチングさせるのが難しい。参加したい気持ちはあるが、ボランティアバンクに登録しているけれどもなかなか参加できないということもあるので、母集団を増やすしかないのかなと思う。

丸藤様：来年度は個人的の余裕ができるので応募したい。

谷山様：

広報で回したが、HPまでにたどり着く技術のない高齢者を見ていると、QRコードを読み込むことができるもう少し若い世代、例えばお父さんやお母さん、小学校や中学校などのPTAに参加してもらおうという形の方が良いかもしれないし、チラシを貼るにしても「生協などお買い物コーナーのところやレジのあたり」に見えるように貼ってもらうとか、一般の人に注目してもらうようにしてはどうか。チラシを貼るなど、ボランティアに申し込んでしまうと、どのくらい拘束されるのか、自分の時間をどう伝えるのか、町内活動もそうですが意外と重く感じるのも、もう少しコンビニ的にちょこっとできるのであれば良い。

校長：

手話体験等、講習を受けていただくだけでも本校への理解を深められると思う。実際のボランティアに繋がらなくても、登録していただけるようになれば良いが、説明するまでにはたどり着かない。興味をもっていただけるために、先ほど教えていただいたように、お風呂だったり、スーパーだったり場所の工夫とチラシなども考えていきたいと思う。

細谷様：

200枚もらうことは可能か？4月に特別支援教育という授業を行うが1年生約200人ぐらいの学生が免許を取ろうとするので、そこで配付できる。4月の一番最初にはいろいろな学校からこの手の話がくるので配布は可能である。

3月末ぐらいにいただければ良い。

校長：学生さんはとても有力な候補となるのでありがたい。

(4) 質疑応答

丸藤：

これまでのことで思いついたことなど。学校に聞いてみたいことなどあればお願いします。

→特になし

～3時間授業参観・施設見学～

<連絡報告>

(1) 学校評価について (教頭)

教頭：

資料は特にありません。来年度に向けて、今年度の評価を保護者と教職員で行っている。結果を踏まえて第3回の協議会のときに結果を示して皆さんからもいろいろ御指導をいただいて次年度に向けて方策を考えていきたい。

(2) 今年度の協議会の予定について (教頭)

教頭：

第3回の学校運営協議会を令和6年2月15日(木)10時から11時30分で予定している。メールやFAXにて連絡する

丸藤様：

6の協議・連絡事項の報告全てが終わりました。この後は事務局の方にお返ししたい。

7 その他

教頭：

本日実際の子どもたちの様子を御覧いただいた。出席していただいた委員の皆様方より感想で構わないので一言お願いしたい。

丸藤様：

先ほどビデオで見させていただいた学習発表会は本当に良かったと思った。幼稚部、小学部、中学部とどんどん成長している様子が見られる。中学部の皆さんの発表は本当に私も勉強になった。たくさん調べて子どもたちも頑張っているが、先生たちも一生懸命であることがすごく分かり嬉しい1日になった。前から聾学校のファンであるがますますファン度が強くなってきた。先ほどお話したように、自分自身が来年度は是非ボランティアバンクに協力していきたい。

細谷様：

今、聾学校の小学部の岩田先生が大学院で私の研究室に所属をしていて日々研究をしている。従来、聾教育であまりいなかった重複障がいのお子さん、知的障がいをあわせもつおさんが年々増えてくることが予想される。そこに向けて、我々大学も研究機関としてできることをしていきたい。

仲尾様：

学習発表会を見て、子どもたちの成長を感じた。学校の様子は、前向きで進歩が早いなど思った。素晴らしいと思う。もちろん前から素晴らしいですが。

谷山：

昨年から一緒に学ばせてもらっている。来る度に子どもたちが成長しているのを見るととても嬉しい。先日、学習発表会を同じ町会の高齢者の方と一緒に見に来ている。幼稚部の子どもが次の子どものセリフを言うまで待つてあげる様子を見て、こころを育てる教育を見ることができた。一緒に出ていた先生も汗をかきながら取り組んでいた。そういう様子が見られることはすごく嬉しい。最近、近所の話では中学校が荒れて不登校が増えていると聞いている。これまでの3年間コロナ禍でいろいろなところで交わらない状況が続いたが、今ここにいる子どもを見るとしっかりと育っていて、いろいろな機器を駆使して、逆にどんどん成長している様子をHPからも見ることができた。

西村様：

子どもの成長をあまり期待してはいなかったが、聾学校に通って息子の成長を感じることができた。学校の環境の良さや先生たちに良くしていただいていることを保護者として声を大にして言いたい。

青木様：

今日は1日ありがとうございました。毎回参加させてもらおうと新しい発見があつて素晴らしいと思った。いじめ防止については、起こってしまったときのマニュアルがあつて良い。専門家が入ったチームで進めていきたいと思います。聾教育や聾学校に対して正しい知識をもって接する必要がある。私は元々ソーシャルワーカーですが、ソーシャルワーカーも聾教育や聾学校のことを知って対応できる人が必要である。そういう人材を作っていかなければいけないということを改めて思い、校長先生が提唱されている学校のボランティアを広めていくことは、正しい方向性なのだと私は思う。

専門職でいろいろやりましようといった資格だけをもっていても本当に実態が良く分からないことがあるのでコミュニケーションを取ってやっていく必要がある。学校を見学しての質問ですが、例えば幼児教育を担当した先生が小学部6年生などを担当されたりするととても大変なのでは？何かそういう秘訣みたいなものがあるのか。

校長：

北海道の聾学校には、教員養成大学がない。宮城県より北にはない。聾学校の免許が取れるのは、宮城教育大学と東北福祉大学があるが、北海道の先生は聾学校に入ってから認定講習などで聾学校の免許を取る。そこから始めるので、専門性の維持や向上に苦勞する。毎年教員が入れ替わり、他の特別支援学校や普通学校から入ってきたり、期限付きで入ってくる先生がいたりして専門性の維持・継承・発展が課題である。0歳から言葉を身に付けていくための言語指導というのは非常に難しい。言語指導については、乳幼児期や幼児期を指導する先生については高い専門性が求められる。私の免許は中学校と高校だが、聾学校では幼稚部を含めていろいろな経験をさせていただいた。そうやって、先生方自身も学んでいく。生徒は、本校を卒業した後も高等聾学校に行き、進学や就職をした後も聾学校にいれば、子どもの情報が集まってくる。卒業生も母校に対する愛着が強い。一生の教育であると思ってやっている。幼稚部・小学部の言語指導を経験した教員は小学部の高学年についても言語指導の基礎的知識をもって指導を行うことができる。幼稚部では、幼稚園の免許をもっている人たちが担当しなければならないと言われていて厳しくなってきた。いろいろなことを考えながら、今やれることを積み重ねながらやっている状況がある。今、スクールソーシャルワーカー（SSW）とかスクールカウンセラーが学校に入ってくるようになった。どなたかにスクールカウンセラーをお願いしたいと思った際には、コミュニケーション面が壁になり、お願いしにくいということがある。そういった訳で、いつもアンテナを張っているのです、そういう人材がいらっしゃったら教えていただきたい。

鏡様：

学習発表会などいろいろ見させていただき、いろいろな機材AIなどを使っており、今DX化と言われているが進んでいるのが分かった。学習発表会で中学部がプレゼンを行っていたが素晴らしいと思った。

8 閉会